

## 介護保険料の設定について

### 1. 保険料基準額の指標

(円)

	令和3～5年度	令和6～8年度	令和9～11年度	令和12～14年度	令和15～17年度	令和18～20年度	令和21～23年度	令和24～26年度
	第8期	第9期	第10期	第11期	第12期	第13期	第14期	第15期
保険料基準額(月額)(基金取崩し前)	6,940	6,862	7,349	7,846	8,603	8,689	8,780	8,857
準備基金取崩額の影響額	440	562	644	651	681	526	542	564
保険料基準額(月額)	6,500	6,300	6,705	7,196	7,922	8,163	8,238	8,293
保険料基準額(月額)(8期計画掲載分)	6,500	7,032	7,527	8,022	8,625	8,772	8,918	9,321
準備基金の残高(前年度末の見込額)	1,063,476,105	1,753,345,328	1,621,345,328	1,371,345,328	1,121,345,328	871,345,328	871,345,328	871,345,328
準備基金取崩額	702,000,000	882,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000	750,000,000	750,000,000	750,000,000
準備基金取崩割合	66.01%	50.30%	61.68%	72.92%	89.18%	86.07%	86.07%	86.07%
標準給付費見込額(3年)	55,516,457,000	52,251,901,016	52,660,231,780	53,068,562,544	55,079,340,894	55,983,310,890	56,887,280,886	55,942,280,249
標準給付費見込額(年額)	18,505,485,667	17,417,300,339	17,553,410,593	17,689,520,848	18,359,780,298	18,661,103,630	18,962,426,962	18,647,426,750

※第10、13、15期については、前後の期の平均で試算(見える化システムによる将来推計が、5年おきの推計のため)

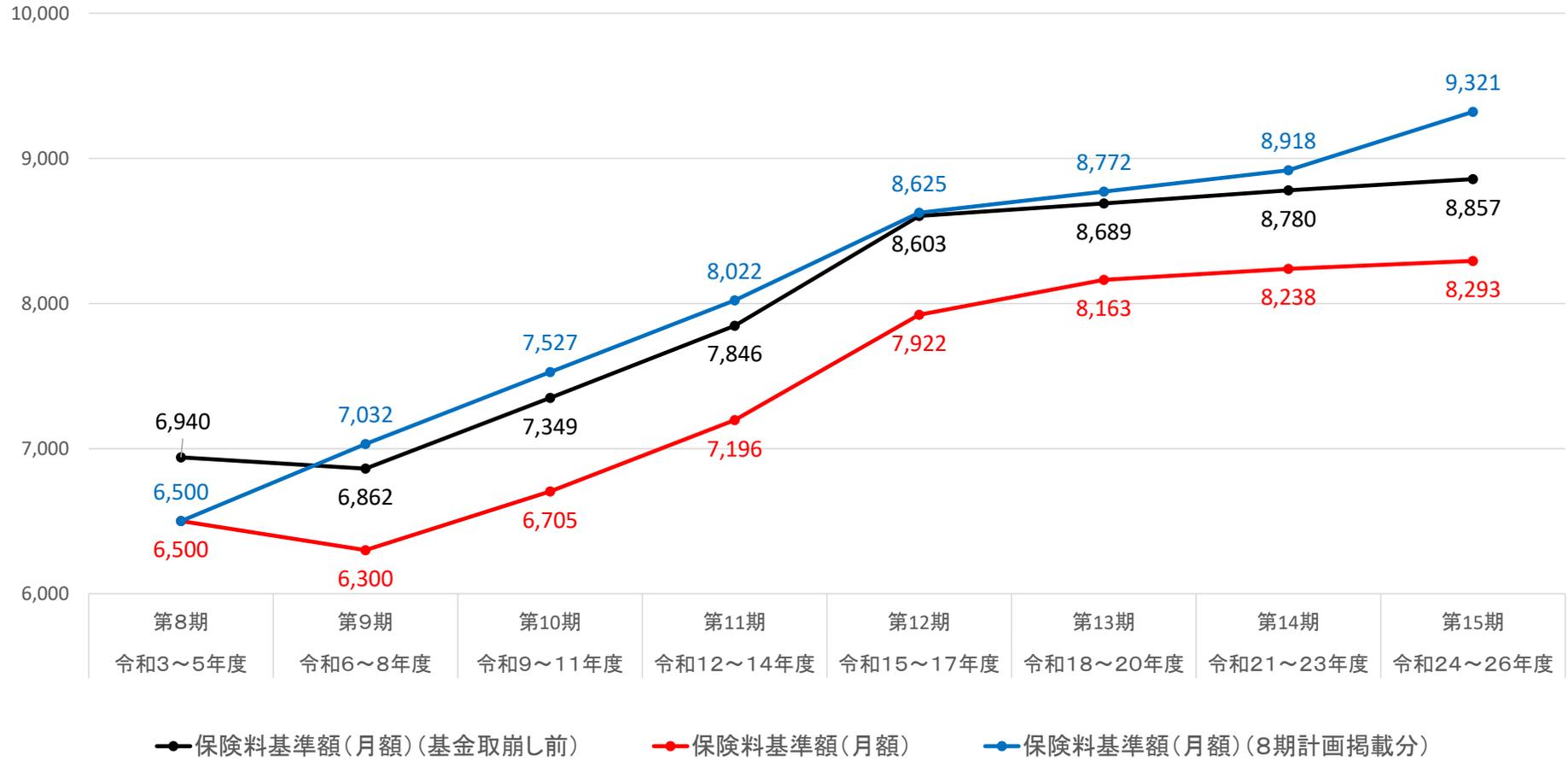
### 2. 第1号被保険者数等

(人)

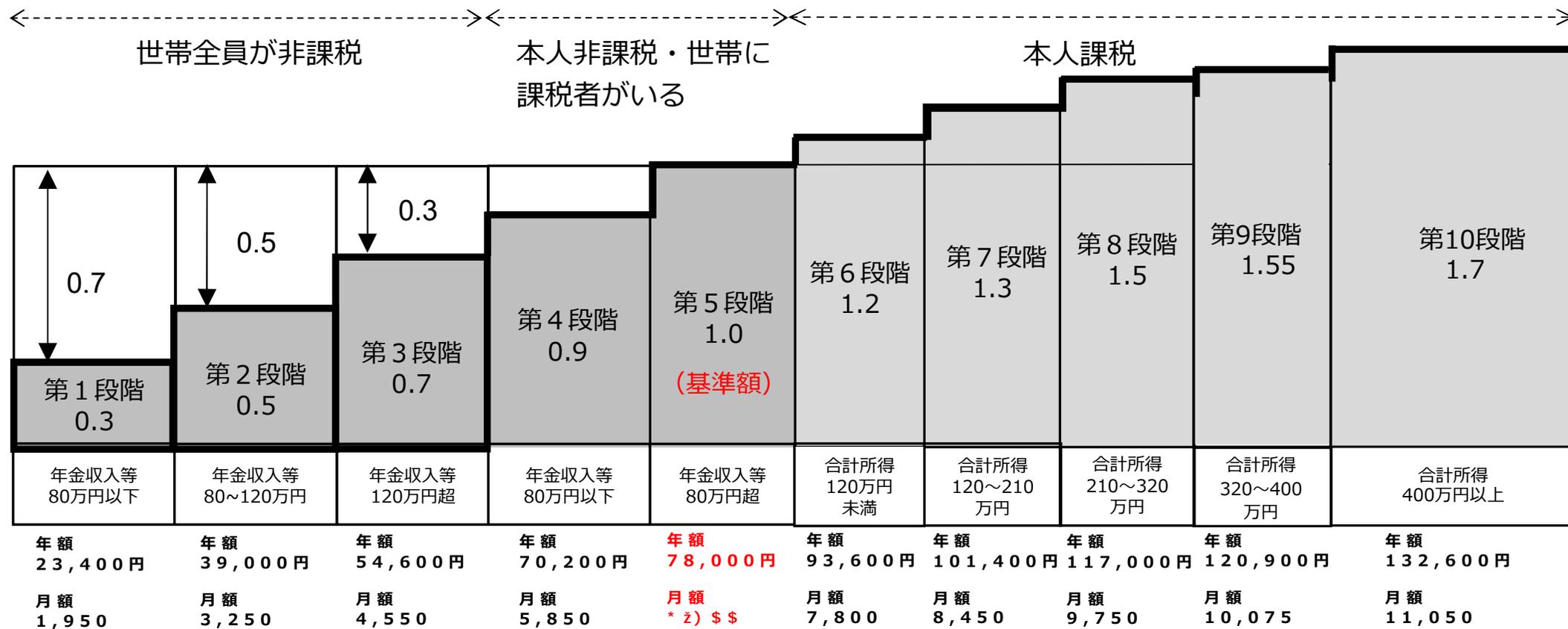
	令和3～5年度	令和6～8年度	令和9～11年度	令和12～14年度	令和15～17年度	令和18～20年度	令和21～23年度	令和24～26年度
	第8期	第9期	第10期	第11期	第12期	第13期	第14期	第15期
第1号被保険者数	48,023	48,078	47,573	47,068	44,951	43,666	42,381	40,734
前期高齢者(65～74歳)	22,572	20,809	19,521	18,234	15,551	14,819	14,087	13,586
後期高齢者(75歳以上)	25,450	27,270	28,052	28,834	29,400	28,847	28,294	27,148
後期高齢者(75歳～84歳)	15,036	16,543	17,465	18,386	17,564	16,500	15,435	14,354
後期高齢者(85歳以上)	10,414	10,726	10,587	10,448	11,836	12,348	12,859	12,794

※第10、13、15期については、前後の期の平均で試算(見える化システムによる将来推計が、5年おきの推計のため)

## 介護保険料基準額推移



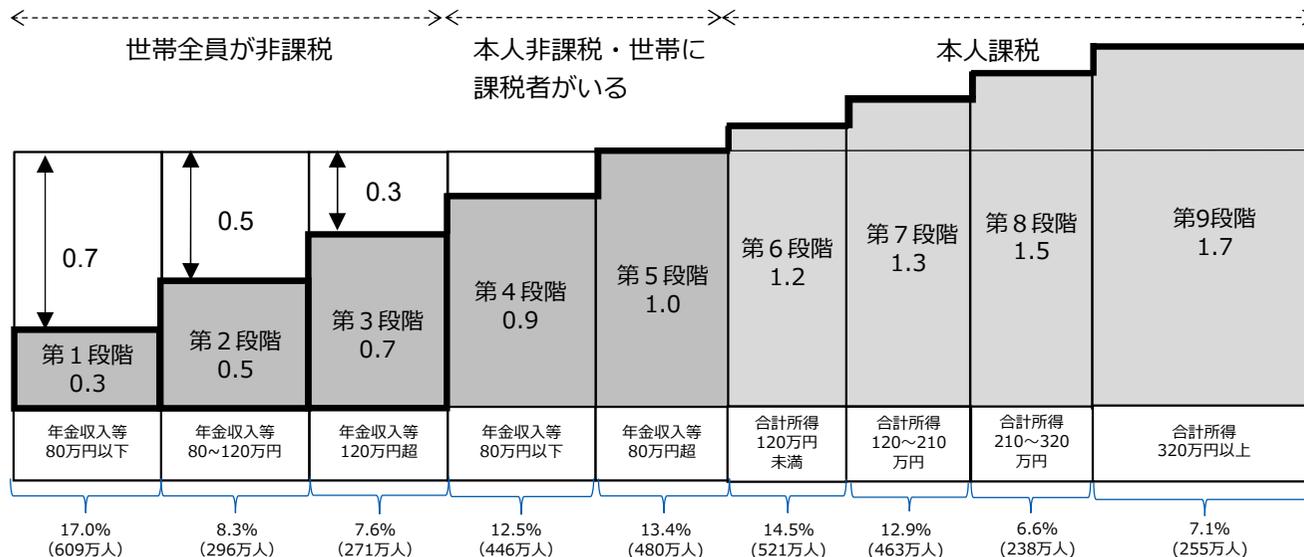
令和3年～5年度の介護保険料の基準額は78,000円（年額）  
 この基準額をもとに、所得状況に応じて、10段階に分かれます。  
 ※国の基準は9段階



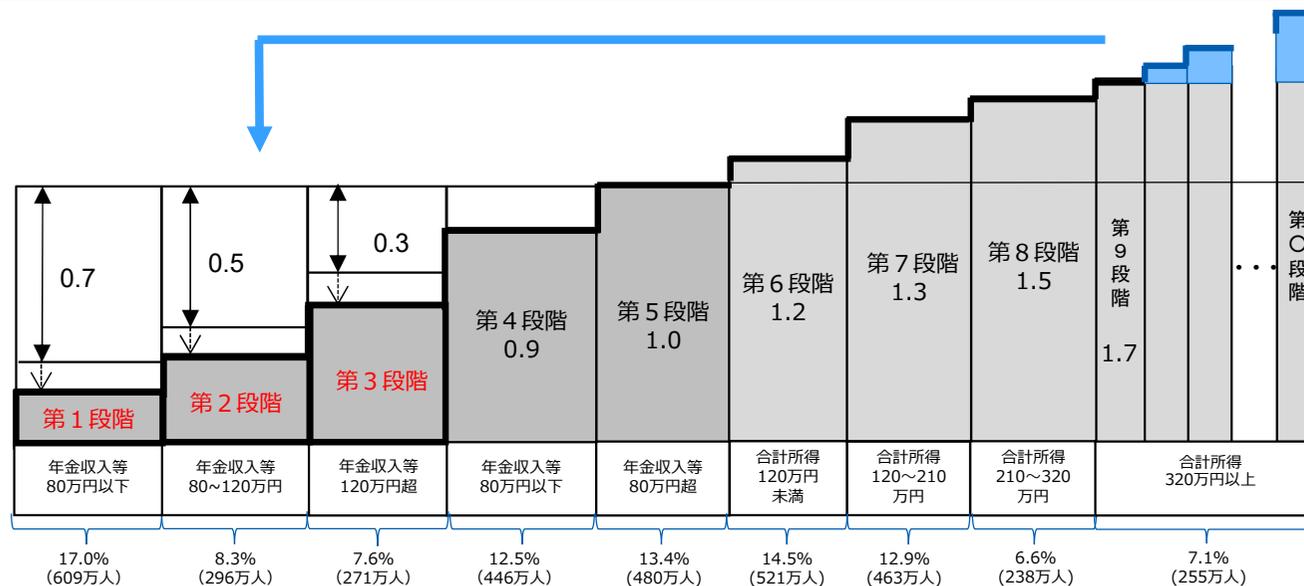
# 1号保険料負担について

○意見書では、1号保険料負担の在り方について、介護保険制度の持続可能性を確保するためには、低所得者の保険料上昇を抑制することが必要であり、負担能力に応じた負担の観点から、既に多くの保険者で9段階を超える多段階の保険料設定がなされていることも踏まえ、標準段階の多段階化、高所得者の標準乗率の引上げ、低所得者の標準乗率の引下げについて検討を行うことが適当とされている。具体的な段階数、乗率、低所得者軽減に充当されている公費と保険料の多段階化の役割分担等についてどのように考えるか。

## 現行制度



## 見直しイメージ

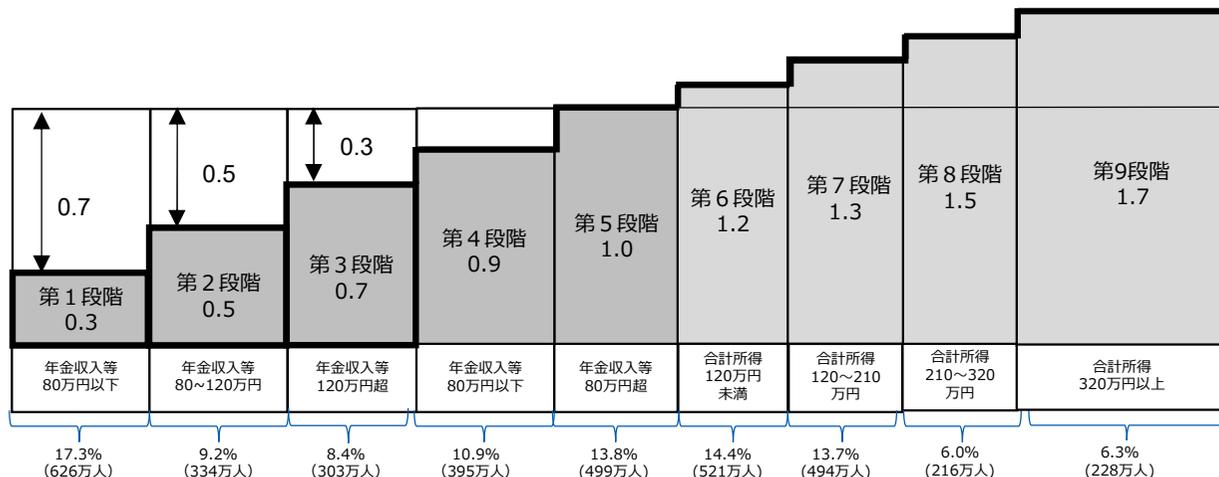


※ 低所得者軽減に充当されている公費と保険料の多段階化の役割分担についても、検討が必要。

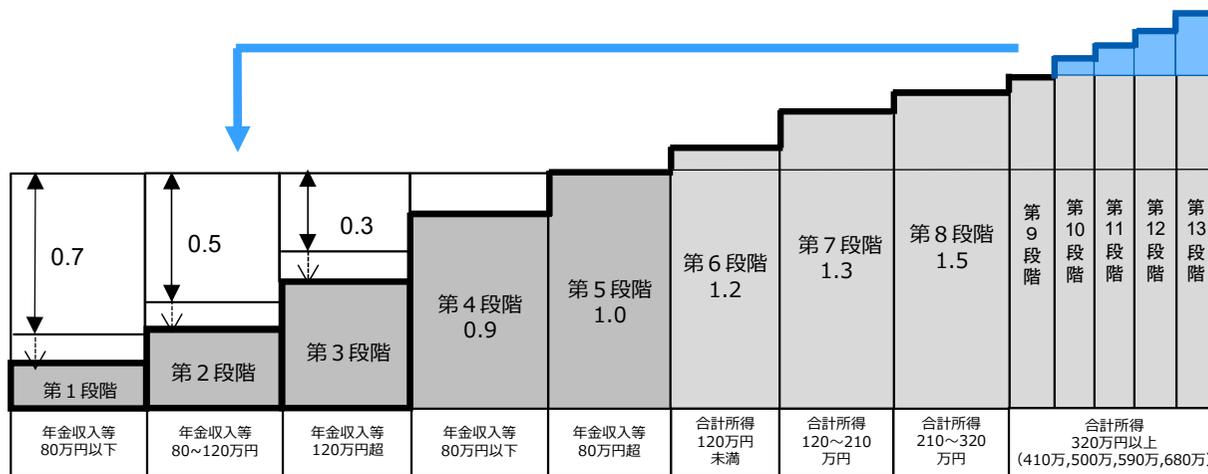
# 介護保険部会での議論を踏まえた見直しの例

- 1号保険料の見直しについて、具体的な段階数、乗率、低所得者軽減に充当されている公費と保険料の多段階化の役割分担については、今後の介護保険部会等の議論を踏まえつつ年末までに結論を得るとされている。
- 7月10日の介護保険部会における自治体のご意見を踏まえ、保険者の第9期計画期間の保険料の検討等に資する観点から、介護保険部会での議論や既に多段階化を行っている保険者の実態を踏まえつつ、制度内の所得再分配機能を強化し、低所得者の保険料上昇を抑制する観点から、現段階で考えられる見直しの例を示すもの。

## < 現行制度 >



## < 見直し例 >



第1段階～第3段階の乗率の例

①	0.26	0.47	0.68
②	0.275	0.48	0.685
③	0.29	0.485	0.69



第9段階以上の乗率の例

A	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1
B	1.7	1.9	2.1	2.3	2.4
C	1.7	1.9	2.1	2.3	2.6